

4. 英国被害者援助組織協会 V S (Victim Support)

[V Sの概要]

英国の代表的な被害者援助組織V Sは、1974年につくられた。全国の400近くの支部で、約16000人のボランティアが被害者支援を行っている。主な活動内容は、殺人、レイプ、暴力犯罪、侵入盗、窃盗、放火などあらゆる犯罪の被害者に対して、精神面でのサポートをベースに、壊れた鍵や侵入口の修理などの生活支援、犯罪被害補償制度や福祉サービスについての情報提供や紹介、警察の捜査や裁判についての情報提供、警察や裁判での付添サービスなどを行っている。

活動に参加するボランティアは、本部でつくられた全組織共通のトレーニングマニュアルによって行われる。以下に挙げるのは、主に被害者への連絡、訪問を行うボランティアの基礎研修プログラムと、裁判所において証言や傍聴をする被害者および家族に付き添う証人サービスのボランティアの研修プログラムである。

[ボランティア基礎研修プログラム]

(Victim Support Basic Training Programme for Volunteer Visitors)

この基礎研修を受けた後、侵入盗などの比較的軽い犯罪の被害者への支援を行う。一定期間の後、次のステップの研修を受け、暴力犯罪の被害者等の支援を行う。

第I部、第II部とも各回約120分で、3日から6日の日程で行われる。

[第I部]

第1回：開会

自己紹介 研修の紹介 V Sの活動 被害者訪問の概要
移行技能(transkills)の実習

第2回：犯罪の衝撃

強盗クイズ 犯罪および被害者についての感情 状況設定演習 事例検討

第3回：紹介(referrals)

組織のリファースシステムと被害者と接する方針 V Sと警察

第4回：積極的傾聴(active listening)

積極的傾聴の実習

第5回：被害者訪問の準備

犯罪被害者に対する実際的援助 秘密の保持 記録票の解説

第6回：被害者訪問

玄関での自己紹介 電話での自己紹介 被害者訪問

第6(a)回：電話による連絡

電話での連絡の特徴 視覚的な情報がない時の積極的傾聴 自己紹介

電話による通話 電話連絡のためのチェックリスト

第7回：締めくくり

記録票 ボランティアの安全 その場でどうするか

終わりの実習

[第Ⅱ部]

第1回：積極的傾聴(2)

積極的傾聴の実習

第2回：積極的傾聴(3)

カウンセリングスキル

第3回：暴力

受容できる／受容できない暴力 暴力犯罪—誰が被害者か

暴力犯罪の衝撃

第4回：人種的いやがらせ

いやがらせの経験

第5回：子どもと家族

子どもと犯罪 事例検討

第6回：法廷の被害者

被害者の裁判経験 法廷の行動規範

第7回：家庭内暴力

ビデオ視聴 家庭内暴力への反応 家庭内暴力への好ましい反応

[刑事裁判所証人サービスボランティアトレーニングプログラム]

(Victim Support Crown Court Service Volunteer Training Programme)

第1回：状況設定

導入 コースの紹介 サービスの必要性 法廷の証人サービスの一日

第2回：犯罪と出廷における被害者の影響

強盗クイズ 状況 被害者の出廷 事例検討 被害者の裁判経験

第3回：コミュニケーション技能

コミュニケーションへの導入 複雑な情報の説明 インフォメーションデスクでの指示 アクティブラリスニングの実習 ロールプレイ

第4回：裁判過程と手続き

専門用語の定義 実習 刑事裁判所審判 裁判所と利用者 判決に対する準備

第5回：性暴力

性犯罪の定義 性暴力についての神話と事実 性暴力を受けた女性の衝撃
性暴力を受けた男性の衝撃 ボランティアのルール 全体会

第6回：法廷におけるボランティアになるために

実践倫理規定 機会均等 行動規範

第7回：コースの終結

「もし・・・の時にはどうするか？」 法廷における適切な行動 フィードバック

第8回：殺人被害者家族へのサポート

付録：プログラムの例 参加者へ 専門用語辞典 犯罪の影響 刑事司法に対する被害者の意見
ボランティアの声明 参考文献 フィードバックシート

5. 全米被害者援助機構 NOVA

(National Organization for Victim assistance)

[NOVAの概要]

全米被害者援助機構（NOVA）は、レイプクライシスセンター、DV被害者のシェルター、検察局、司法関係者、地域の組織など犯罪の被害者と共に活動するグループによって1975年につくられた。被害者の権利のための擁護、提唱、被害者へ直接サービス、被害者援助専門家への支援、傘下組織へのサービスを行うことを目的としている。主な活動の一つに、被害者支援に関わる様々な分野の専門家および支援組織のボランティアへの研修がある。以下は、その中の初級トレーニングのカリキュラム例である。

[NOVA ボランティア初級トレーニングカリキュラム例]

(Developing and Evaluating Training Programs)

- A. オリエンテーション (120分)
 - 1. 事務局と講師の紹介 (30分)
 - 2. 研修の概要や資料の説明、ボランティアに期待すること (30分)
 - 3. ボランティアの自己紹介と研修に期待すること (60分)
- B. 被害について (60分)
 - 1. 合衆国の犯罪数と被害
 - 2. 司法における被害の定義：被害とは何か
 - 3. 経済的、身体的被害の影響
- C. 被害に遭った時の危機反応 (60分)
 - 1. 危機状況での身体的反応
 - 2. 危機状況での情緒的反応
- D. 被害後の二次暴力 (60分)
 - 1. “刑事司法制度” 概論
 - 2. メディアのプライバシー侵害
 - 3. 家族や友人による非難
 - 4. 被害者を傷つける慣例
- E. 長期のストレス反応 (60分)
 - 1. PTSD
 - 2. 長期危機反応
- F. 危機介入のテクニック (60分)

1. 安全感と安心感
 2. 話をしてもらう
 3. 今後に備える
 4. 介入に有用な言葉
- G. 危機介入実習 (60分)
- [ロールプレイ必修]
- H. サポートイブカウンセリングのテクニック (60分)
1. 効果的なコミュニケーションテクニック
 2. 問題解決のスキル
 3. 精神的問題
 4. 家族の介入
 5. 擁護
 6. 意味を見つける
- I. 刑事司法制度 (120分)
1. 刑事司法制度の機能についてのまとめ
 2. 刑事司法制度の用語
- [講義・裁判のロールプレー・実際の法廷での研修]
- J. 被害者補償制度 (60分)
1. 被害者補償制度の機能についてのまとめ
 2. 用紙の記入 [実習]
- K. 被害者に関わる政策と立法 (120分)
1. 被害者関係の州の法律についてのまとめ
 2. 法律の制定の方法
- L. 被害者インパクトステートメントに備える (120分)
1. インパクトステートメントがいつどのように受け入れられるか
 2. インパクトステートメントに備える
- [講義・ステートメント記入の実習]
- M. ケースマネジメント (120分)
1. 警察と訴訟手続きについてのまとめ
 2. ケースマネジメントについて必要な書類の記入を練習する
- N. 被害者支援に使える社会資源 (60分)
1. 地方の社会資源
 2. 国の社会資源
- O. 危機介入実習 (120分)
- P. 性暴力被害者 (180分)
1. 性暴力とは何か

2. 性暴力の社会通念
 3. 性暴力被害者に対する時の特有の問題
[講義・ビデオ]
- Q. 被害者支援の倫理 (60分)
1. 守秘問題
 2. プライバシー問題
 3. 特別の問題 (ドラッグ関連の被害者、HIV感染被害者など)
[問題と対応方針]
- R. 価値観の明確化 (180分)
1. 偏見や先入観と向き合う
 2. 多文化的状況で対処する
 3. ゲイやレスビアンの被害者に対処する
[講義・話し合い]
- S. 子供の被害者 (180分)
1. 子供の被害とは
 2. 子供の被害者に対する時の特有の問題
 3. 青少年の被害者と加害者に適用される法律
[講義・話し合い・ビデオ]
- T. 危機介入実習 (120分)
- U. パートナーの暴力 (180分)
1. パートナーからの暴力被害とは
 2. パートナー暴力の社会通念
 3. パートナー暴力被害者に対する時の特有の問題
[講義・話し合い・ビデオ]
- V. 殺人被害者遺族と重傷者 (180分)
1. 殺人被害者遺族と重傷者とは (飲酒薬物運転事故の被害者遺族を含む)
 2. 特有の問題
 3. 死についての問題
[講義・話し合い・ビデオ]
- W. ボランティアとケアギバーのストレス (60分)
1. 自分自身のストレスに対処する
 2. 他者のトラウマに対処する
[講義・ストレス反応に対処する方法の練習]
- X. まとめと修了 (60分)
- 卒業式あるいは閉会式を行う。正式な証明書を配布する